文化財をたずねて

No.32

渡来人と秦氏ゆかりの地をたずねる

発行　赤穂市教育委員会
編集　文化財課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL:43-6962 FAX:43-6895）

古墳時代から飛鳥時代に、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へと移り住んできた人々を渡来人と呼ぶ。彼らは漢字、仏教、製鉄、牛馬など、当時最新の文化や技術を日本にもたらし、日本文化を形作るうえで大きな役割を果たした。赤穂市においても、渡来人がいたことをうかがわせる遺跡や遺物が見つかっている。

渡来人の子孫は様々な氏族名を称したが、そうした氏族のひとつに秦氏（はたし（はたうじ））がある。秦氏は秦（しん）の始皇帝の子孫を称する渡来系氏族で、朝鮮半島から養蚕や機織り、酒造りといった技術をもたらしたとされる。赤穂郡は聖徳太子の死後に秦河勝（はたのかわかつ）が漂着した地とされ、秦河勝にまつわる伝説や神社が数多く残る。近年、文献や考古資料の研究が進展し、赤穂郡には実際に秦氏を名乗る人々が多く存在し、有力者として地域をまとめたり、様々な開発を進めたことが明らかになりつつある。

本号では、渡来人と秦氏に関わる赤穂市の文化財を紹介する。

「秦」刻書須恵器片
有年牟礼・山田遺跡出土

①蟻無山１号墳（有年原）

蟻無山山頂に築かれた全長52ｍの造り出し付帆立貝形古墳である。発掘調査は行われていないが、採集された埴輪や須恵器の特徴から５世紀前葉（古墳時代中期前葉）に築造されたと考えられ、同時期の古墳としては千種川流域で最大である。

採集された須恵器の器台片は密な波状文を施したもので、朝鮮半島から製作技術がもたらされて間もない時期の初期須恵器と考えられる。同様の文様を持つ須恵器は５世紀前半の播磨地域に分布が集中する珍しいものである。馬形埴輪は、板状の２枚の粘土を貼りあわせて成形する製作技法、目元や馬具の表現から最古級の馬形埴輪とみられる。

蟻無山１号墳の被葬者は、渡来人と深い関係をもち、初期須恵器や馬といった当時最新の渡来系文物を所有していた人物であったと考えられる。

蟻無山１号墳

②有年原・田中遺跡（有年原）

有年原地区に所在する遺跡である。ほ場整備や小学校舎建築などに伴う発掘調査が実施され、弥生時代後期の墳丘墓をはじめ貴重な遺構・遺物が多数見つかっている。昭和63（1988）年に原幼稚園南側で行われた発掘調査では、幅約８ｍ、深さ約2.5ｍの旧河道が見つかり、渡来人と関係の深い初期須恵器などを含む多数の遺物が出土した。

初期須恵器は焼成に失敗した破片が含まれており、付近に須恵器窯が存在したと考えられる。また、調理に使ったと思われる韓式系軟質土器の甑（こしき）（蒸し器）は製作技法や形状が朝鮮半島のものと共通していることから、付近に朝鮮半島からの渡来人が居住していた可能性がある。

旧河道などから出土した初期須恵器など
有年原・田中遺跡出土

③堂山遺跡（塩屋）

赤穂市塩屋字堂山に所在する遺跡で、昭和 53（1978）年、松岡秀夫氏によって発見された。翌昭和 54（1979）年度には山陽自動車道赤穂インターチェンジ建設に伴う発掘調査が兵庫県教育委員会によって実施され、縄文時代から中世にかけての遺物が多数見つかったほか、古墳時代後期のカマドや平安時代末～鎌倉時代の塩田遺構が確認された。特に塩田遺構は、この時期の塩田遺構として日本で初めての調査例となった。初期の塩田である「汲潮浜式塩田」で、採鹹土坑や防潮堤などから構成されることが分かっている。

3 ～ 4 世紀の遺物として、吉備で作られた土器や、山陰地域などの影響を受けた土器が出土した。また年代は不明だが、朝鮮半島から持ち込まれた可能性がある土器の破片が見つかっている。

堂山遺跡

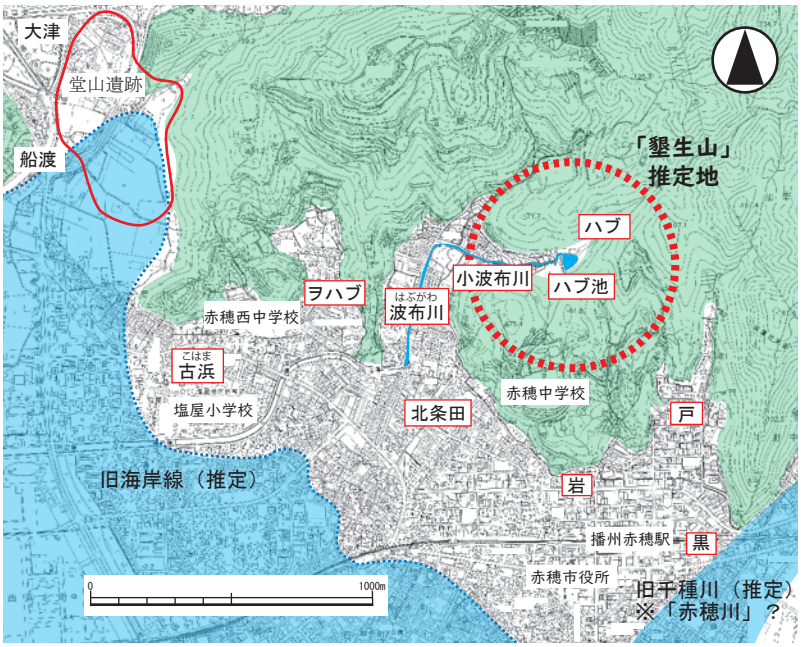
周囲は現在も標高 1m 以下の低地が多い。鎌倉時代頃まではこの付近まで海水が入り込み、干潟が広がっていたと考えられる。

④墾生山と石塩生荘（塩屋・加里屋）

奈良時代（約 1,300 年前）、現在の赤穂市街地付近には塩づくりに関連する荘園が存在した。

延暦 12（793）年の「播磨国赤穂郡坂越神戸両郷解」によれば、天平勝宝 5（753）～同 7（755）年、播磨守であった大伴犬養は、赤穂郡坂越郷にあった「墾生山（大墾生山）」の山地や葦原を開墾した後、「秦大炬」という人物を目代に任命し墾生山を管理させた。秦大炬は「塩堤」を築こうとしたが、失敗し退去した。その翌年、墾生山は塩山（製塩に必要な燃料を採取する山）として東大寺に施入されたという。『東大寺文書』などの記述から、その後 9 世紀には東大寺の荘園である「石塩生荘（のちの赤穂庄）」が成立したとみられる。

記録によれば、北は「百姓口分弁塩生山崎」、南は「海」、西は「大依松原」、東は「赤穂川」までが石塩生荘の範囲とされている。地名や古文献の研究、発掘調査成果などから、現在の播州赤穂駅周辺から大津・船渡付近までの範囲に石塩生荘があったと推定される。塩屋地区には、墾生山に関係するとみられる「ハブ」「ハブ川」などの古地名が残っている。



赤穂市街地周辺にみられる古地名（左）、波布川と高山（右上）、ハブ池（右下）

秦大炬が管理した「墾生山」は、現在の「ハブ」「ハブ池」「小波布川」を中心とする範囲にあったとみられる。江戸時代の地誌『播州赤穂郡志』には「塩屋村は鱧谷よりの出村也」と記されているが、ここに記された「鱧谷」は「ハブ谷」が転訛した地名と考えられている。「古浜」付近は海岸線だったとみられる。「東大寺文書」などの古文書の記述によれば、石塩生荘では海岸線で「塩浜」（海水を蒸発させて塩を採取するための砂浜）が営まれていたという。

⑤有年牟礼・山田遺跡（有年牟礼）

有年牟礼に所在する集落遺跡である。昭和63（1988）年にほ場整備に伴う調査が行われ、その後平成24（2012）年にも調査が実施された。注目される出土遺物として、昭和63年の調査時に出土した、「秦」の文字が刻まれた須恵器片がある（本号冒頭写真参照）。杯または椀の口縁部とみられ、9世紀頃のものと考えられる。

有年牟礼・山田遺跡では焼成に失敗した飛鳥～奈良時代の須恵器も出土していることから、須恵器窯経営に関わる集落であったとみられる。遺跡から約1km北には有年牟礼・山田遺跡とほぼ同じ時期に営まれた山田奥窯跡が存在する。

有年牟礼・山田遺跡

⑥大避神社（坂越）

坂越の宝珠山（ほうじゅさん）山麓に建つ神社で、秦河勝（大避大明神（おおさけだいみょうじん））、天照大皇神（あまてらすおおみかみ）、春日大神（かすがのおおかみ）を祭神として祀る。創建年代は明らかではないが、養和（ようわ）元（1182）年頃にはすでに有力な神社であったとみられる。現在の本殿は明和6（1769）年、拝殿と神門は延享3（1746）年に再建されたものである。

毎年10月に行われる「坂越の船祭（国指定重要無形民俗文化財）」は、もとは秦河勝が坂越浦に流れ着いたとされる9月12日に行われていた。生島の御旅所まで11艘の舟が船団を組んで坂越湾をめぐるもので、大阪・大阪天満宮の天神祭、広島・厳島神社の管絃祭とともに瀬戸内三大船祭りの一つに数えられている。

大避神社神門（坂越）

⑦生島（いきしま）（坂越）

坂越の海岸から約100ｍ沖に位置する周囲1.4km、面積約8.1haの島である。応永7（1402）年頃に世阿弥（ぜあみ）によって書かれた『風姿花伝』によれば、秦河勝は聖徳太子の死後、蘇我氏の迫害を避けて難波津（なば）から船で逃れ、「しゃくしの浦（現在の赤穂市坂越または相生市那波）」へ漂着したという。伝承では生島は秦河勝が上陸した島とされ、秦河勝はその後生島で生活したとも、死後生島の墓所に葬られたともいわれる。島内には秦河勝の墓と伝わる生島古墳（生島１号墳）がある。また、島の東岸には秦河勝の上陸地点と伝わる「とびつき岩（鼻）」と呼ばれる巨岩がある。これらの由緒から島全体が大避神社の禁足地とされ、立ち入りや樹木の採取を戒める様々な伝説が言い伝えられている。

島内には生島古墳のほかに4基の古墳が確認されている。島の北岸には、大避神社の御旅所と船倉がある。船倉とその中に保管されている祭礼用和船は、昭和60（1985）年に兵庫県指定有形民俗文化財に指定された。

生島（坂越）

島内には190種余りの植物からなる照葉樹林が原始の状態で保たれており、大正13（1924）年に国の天然記念物に、昭和32（1957）年には瀬戸内海国立公園の特別保護地区に指定された。

⑧荒神社（塩屋）

祭神は素戔嗚尊（すさのおのみこと）。境内には伊勢社、明治42（1909）年に合祀された若宮社、金毘羅（こんぴら）社、塩釜社がある。

正確な創建年代は不明だが、伝承では皇極天皇年間（642～645）、秦河勝が素戔嗚尊を勧進して創建したとされる。神社に残る棟札から、社殿は延宝3（1675）年、正徳5（1715）年、寛政12（1800）年の３回修理が行われたと言われている。「正面さん」とも呼ばれ、江戸時代は「正面荒神（しょうめんこうじん）」と呼ばれていたという。

毎年10月25日に近い日曜日に行われる秋祭りは、屋台行事が赤穂市指定無形民俗文化財に指定されている。

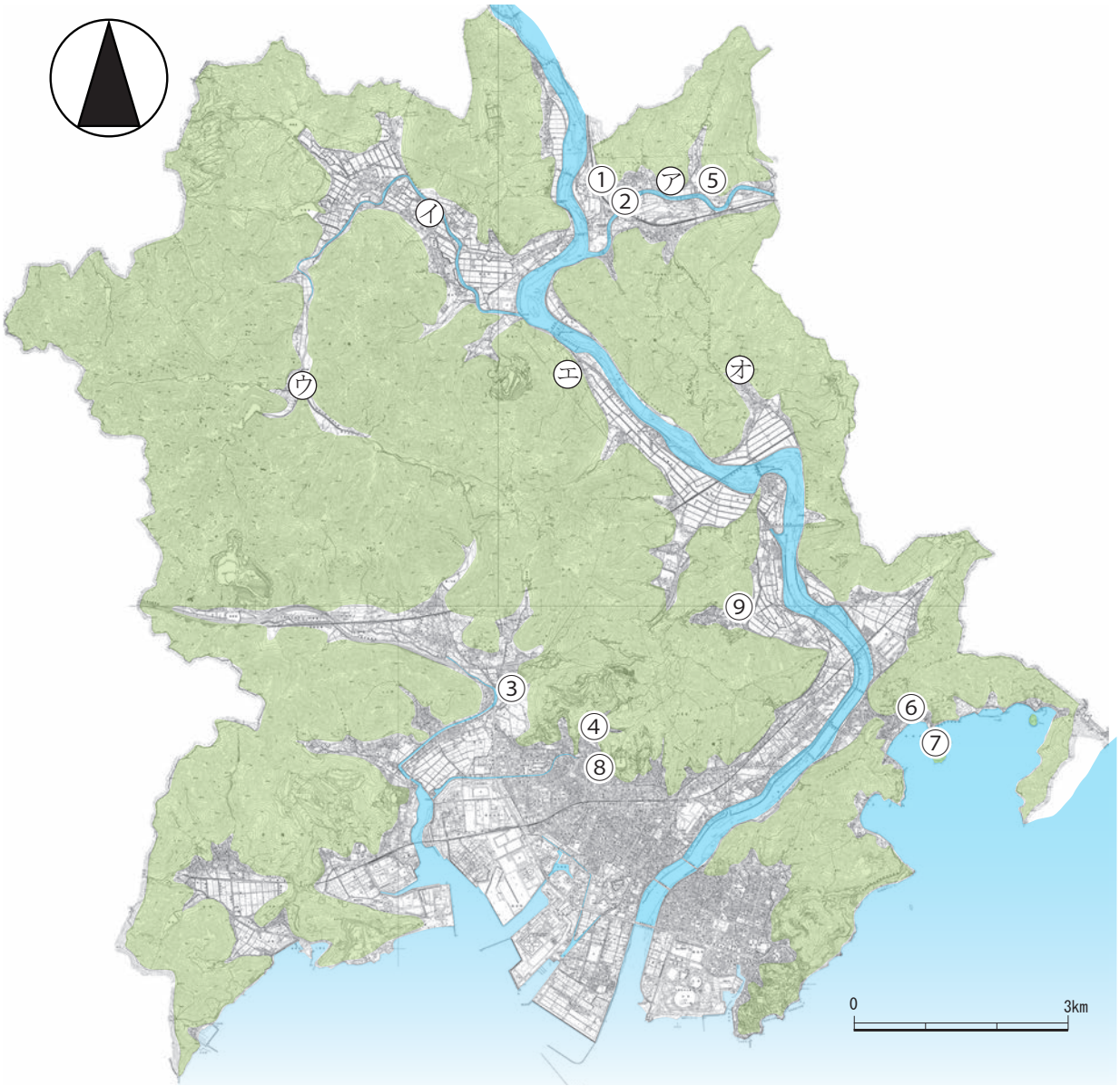
荒神社（塩屋）

⑨大避神社（木津）

木津村の村社で、大工山の麓に位置する。秦河勝を祭神とし、明暦2(1656)年に建立されたといわれる。境内には末社として稲荷神社・荒神社がある。皇極天皇3（644）年、坂越に漂着した秦河勝が鳥井の坂を越えて船で千種川を遡り、上陸した場所に祀られたとされる。社殿は河勝が船をつないだ松の巨木を正面にして建てられ、当時と同じ向きのままであるとの伝承がある。

毎年10月第2日曜日に行われる秋祭りの獅子舞では12種の演目が伝えられる。

大避神社（木津）



①蟻無山１号墳（有年原）
②有年原・田中遺跡（有年原）
③堂山遺跡（塩屋）
④墾生山と石塩生荘（塩屋・加里屋）
⑤有年牟礼・山田遺跡（有年牟礼）
⑥大避神社（坂越）
⑦生島（坂越）
⑧荒神社（塩屋）
⑨大避神社（木津）

※ア～オは赤穂市内に残る大避神社（合祀社含む）。
ア：八幡神社（有年牟礼）　イ：大避神社（西有年）　ウ：大避神社（西有年横山）　エ：大避神社（中山）　オ：八幡神社（周世）

今回紹介した文化財